

留萌市第5回検討会議議事概要

日時：令和7年9月30日（火）14:00～15:30

場所：留萌市役所 3、4号会議室

出席者 委員 藤野委員（座長）、笠井委員（副座長）、橋本委員、前田委員、村上委員、坂本委員
小川委員、佐藤委員、伊端委員、谷委員、矢作委員、志田委員、菖蒲委員
欠席委員 上田委員、炭谷委員、畑中委員、山本委員

オブザーバー（留萌市） 海野地域振興部長、大和都市環境部長、吉田教育部長、林政策調整課長
竹内経済観光課長、安田建築住宅課長、百瀬生涯学習課長

事務局 都市環境部複合施設推進室：大塚室長、遠藤主査、成田主査

運営支援 (株)ドーコン 佐竹、石田、渡邊

開会

座長 開会あいさつ

1. 前回の振り返り

事務局

資料 「第4回検討会議議事概要」及び「第4回検討会議での主な意見」の説明を行った。

また、前回の事業部会において社会教育施設に関する施設整備の前提が委員に共有されていないとの意見があったため次のとおり補足説明を行なった。

基本構想p. 17、5行目から11行目にまとめられているように、新施設は社会教育施設や庁舎を複合化して整備するが、多様なニーズに応えられる多機能で必要な施設として整備していきたい。既存の社会教育施設や公民館機能をそのまま整備するわけではない。ホールは、文化センターのホールではなく、あくまで大ホールであり、多様性をもたせるために可動式で多機能に使えるホールということを基本構想で前提条件として定めている。現状の文化センターの代替機能を持たせつつ、より社会ニーズに対応するような施設整備を目指している。

副座長

この場では、前提条件の理解はできていると思うが、市民が前提条件を理解していない可能性もある。

社会教育施設を含めた公共施設の整備が始まりであったため、検討会議で方向性も考える必要があるのではないか。

事務局

昨年、市民への説明会では防災についての意見が多く、社会教育施設の代替に関する疑義はなかった。

前提が理解されていない可能性があるため、これから議事を公開する中でしっかりと情報共有したいと考える。それでは議事に入る。

2. 議事

座長

ロードマップの説明を事務局からお願いする。

事務局

資料2「留萌市新交流複合施設整備検討会議におけるロードマップ」の説明を行った。

座長

全体を見ながら進行したほうが良いということで、順番を入れ替えたということである。
次に資料3の説明をお願いします。

ドーコン

資料3「新交流複合施設のゾーニング・配置について」の説明を行った。

座長

ただ今の説明はドーコンからの提案であり、その理解でご意見を伺いたい。

施設の場所について、道の駅との連携が重要であることは問題ないと思われる。また、SL及び残っているホームと鉄道も可能であれば活用する。建物形状はオーバーハングの形で整備することで一体感が生まれるのではないかと提案である。ご意見があればお願いします。

委員

駅があることで道の駅側とまち側が分断していたと考える。通り抜けられるのが理想であり、東側の人もアクセスが良くなる。道の駅との連携もそうだが、港との連携も重要であると考え。信金本店側から駅を通り抜け、市道船場公園通りに抜けて、港まで続く道路が1本あっても良いのではないかと。

そうした場合、いろんな方面から来やすくなる。基本構想の中で、賑わい再生、よりよい行政サービス、利便性となるが、なかなか人は来ないと思う。市役所目的でなく、道の駅のついで利用が多くなるのではないかと。

まちとの連携とあるが市民にとって中心市街地は錦町開運町のイメージが強い。駅前商店街との連携は考えられるが中心市街地とはあまり連携されないのではないかと。

SLの移設について異論はないが、集客効果に過度に期待することはできないと感じる。

委員

賛成である。

資料3、p.2の赤い点線はなにか。

事務局

JR北海道から無償で譲渡をうける土地のうち、アクティビティ拠点であるヴィレッジAを除いた敷地である。

委員

ドッグランの駐車場にまっすぐ道を貫くことはどうか。余剰地活用の臨時駐車場を100mほど離れた部分に造るとしたら使いづらい。海岸に近い場所を活用できないか。船場公園の中をまっすぐに市道船場公園通りのカーブに抜けることは可能か。

事務局

不可能ではない。

オブザーバー

その目的何か。

委員

多くの人が来やすい環境を整えるということである。歩きでなく、車で来る方が多いのではないかと。

オブザーバー

車用の道路を造るということか。

委員

市道停車場線を駅前に延長して、市道船場公園通りにつなぐイメージである。そうすれば、港の方にもつながる。道の駅の北側に出て港が見えるようになる。

オブザーバー

公園を通して港側に行くのか、それとも手前の線路側から道の駅に行くのか。

委員

線路側でない方が良いと考える。その道路沿いに新施設も建築できたら良いと考える。

オブザーバー

公園面積を多少減少させても新しい道路を造ったほうがよいということか。

委員

そのように考える。

委員

公園面積を減少させても動線を良くしたい。現在でも駐車場が少ない。イベント時にはすぐにいっぱいになってしまう。施設利用者駐車場が90台となっているが、今の市役所の駐車場もすぐに満車になることから、駅前周辺の利用者を考えると簡単に埋まってしまうのではないか。道路を造れば、道の駅の駐車場等、車で移動しながら駐車場を見つけることが可能になる。

オブザーバー

道路を通した場合に、ほかにどの駐車場を利用することを想定しているのか。

委員

道路を造れば車で移動するので、道の駅の駐車場や他の駐車場も使いやすくなる。

座長

計画施設から道の駅までの新しい道路は造ったほうが良いと考えるが、市道船場公園通りを通行は少ないと思われることから、公園内を突き抜ける必要はなく、線路に近い側に造るので良いのではないか。道路を造るにもお金がかかる。線路に沿う形で道の駅の駐車場から新施設の駐車場をつなぐ道路であればイメージが付きやすいが、公園内を突き抜ける道路と施設整備は直接の因果関係は無いように感じる。

もちろんあったほうが良いが、多くのお金をかけて道路を整備する必要があるのか。何らかの形で道の駅と施設の連動性を取ったほうが良いという意見には賛成である。

委員

費用がかかって難しいということなら、それで構わない。線路側に整備する形でもよいが理想としては新施設から道の駅や港を回遊できればよい。

座長

個人的には、p. 3～4の南川沿通り方面に道路を接続させれば、費用も抑えて整備ができそうであると感じる。施設整備にも費用がかかるため、道路整備にもお金をかけることに関しては、慎重になった方が良いのではないかと。ほかにレイアウトについてご意見ある方はいるか。

副座長

旧駅前の駐車場は近隣店の利用者でいっぱいである。同じ場所に新しい駐車場を造るとしても、あふれてしまうのではないかと。駐車場が増えるほど近隣店の利用者が使用すると考えられる。まちの顔にするのであれば広場にして、バスタッチ、タクシーの乗降場所、車寄せの場所、身障者用の駐車場を整備し、職員駐車場としているところを職員兼用の施設利用者の駐車場とすればよいのではないかと。計画の駐車場の場所では、現状とあまり変わらないように感じる。道の駅を挟んで公園の裏側の顔として広場にすれば、夏場のイベント時の道の駅との連携や、道の駅側が使えない場合、また両方でイベントを行うなどもできるのではないかと。

座長

バスを止められるような形にしても90台は止められるのか。

ドーコン

駐車台数は可能。

座長

バスは常時何台ほど停まっているイメージなのか。

ドーコン

本数的にはそれほど多くなく、2台停める場所があれば十分であるとする。2事業者用の場所があればよい。

座長

バスとタクシー、乗用車の3種類が円滑に動けるようになっていけば良い。バスやタクシーの待機場所はクリアされているとの理解である。

続いて、p. 7以降のフロアのゾーニングである。浸水を考えて2階にホールを置いているとのことだったが、事前の専門部会では荷物の搬入を考慮すると1階が良いのではないかという意見があった。ご意見はあるか。

委員

コンセプトにあるように、市民が使いやすく管理しやすい施設というところとあまりにも津波と洪水にこだわりすぎて利便性が悪くなるのは良いのか。

にぎわいというが、他の小さな町を見ても、簡単に人は来てくれるものではない。どうしたら人が来てくれるのか、イベントなど何回やるのかなどの議論をボトムアップで行うことが必要。

どのような使われ方をして、どのようにしたら市民が来るのかという議論を並行して行う必要があるのではないか。

座長

どういう人たちに使ってほしいのかについて、前々回で若者に集まってほしいという意見が出た。

どれほど津波等に対して対策をするかは課題である。ホール自体を2階にして、搬入口を1階にすることはできないか。

ドーコン

搬入口を1階にし、すぐ横に大きめのエレベーターをつけて荷物を搬入し、エレベーターを舞台横につけるレイアウトで考えていた。ホールの一番上からは3階に直接アクセスできる形で考えている。

座長

音楽合宿の搬出入は、どのようにしているのか。トラックで来て、出し入れなどはどれくらい時間がかかるのか。

委員

大きなトラックで搬出入を行う場合で、大きいエレベーターを使用すると、かなりの時間がかかると考えられる。現在は搬出入に30分ほどかかっており、エレベーターで2階に上げるとなると3～4倍の時間がかかるのではないかと。

座長

エレベーターで搬出入するとやはり時間がかかってしまう。搬入口が1階にあり、エレベーターで2階にあげるような事例はあるか。

事務局

視察した富良野市では、ホールの正面の入り口が2階、舞台と搬入口は1階となっている。文化センターと同様に正面入り口が上にあり、下に降りていく形である。新施設の計画とは違う形になる。

委員

現在の文化センターの搬出入口はとても大きくトラックが丸ごと入る。(エレベーター搬出入は) 難しいのではないかと。時間がかかることで大きなコンサートや演劇等では不満が出るのではないかと。

座長

ホール自体の方向性と同じくらいに課題となる点ではある。エレベーターで何回も荷物を搬入することになるが、そこまでして2階にホールを造る必要があるのか、エレベーターを大きくするのであればホールを1階にした方が良いのではないかと、といったことについて議論をしても良いと感じる。

事務局

検討段階で2階にホールを造るとなった時から、搬入口については大きな課題であった。最終的には、基本計

画に盛り込んで決定していきたい。

委員

冬のことも考えて設計すべきである。現在はトラックを入れての搬入出ヤードがあり、ある程度雪は入るが施設の人がビニールシートで覆って人力で雪をしのいでいる。冬の留萌を想定してトラックヤードを設計していただきたい。

ドーコン

参考までに、札幌の創生スクエアにある芸術劇場 hitaru は、搬出入をエレベーターで行っている。

大と小のエレベーターがあり、大が積載荷重 10t、出入り口寸法幅 9.5m、高さ 3.0mm、小が積載荷重 4t、幅 4.3m となっており、かなり大がかりな設備だが、留萌市でこのような整備とするのか検討が必要。

委員

音楽や文化専用にしないということであれば（エレベーターは）必要ないのではないかと。ホールがどのような目的で使われるのかをしっかりと議論する必要がある。

座長

小型のエレベーターは必要であると感じる。

オーバーハングに少しカバーをつければ雪はカバーできるのではないかと。

ドーコン

色々と考慮はできるが、（ホールが）1階とすることには議論する必要がある。今のハザードマップは 1000 年に 1 度の規模で想定しているが、雨の降り方が変わってきており、悩ましいところである。

事務局

河川整備計画の見直しを行うということであり、これまでの 1000 年に 1 度の災害がより多くの頻度で起こる可能性があり、想定より慎重に検討する必要がある。

座長

スロープをつけて 2 階に搬入口は造れないのか。

ドーコン

スロープがとても長くなるがでなくはない。ただし、ある程度スロープの勾配が必要になり、その分天井も高くしなければならない。施設の造りそのものを変える必要が出てくる。

座長

最終的には、コストとの兼ね合いも考慮しながら検討を行うことになる。

次に資料 4 の説明をお願いする。

ドーコン

資料 4 「ホールの使用実態について」の説明を行った。

座長

固定席にするか可動席にするかについては、前提としては可動席で進んでいるが、費用の問題や災害時の避難受け入れ等を考慮した意見が出ている。

個人的には可動席が良いと考えていたが、一部固定席にするなど折衷案も良いと考える。

事例の中で一番イメージに近いのはどこか。

委員

人口的には東神楽に近いのではないかと。

現状の文化センターや公民館の利用者が少ない。「オーレン」と「アオーレ」の例は稼働率が高いようであるが、そのようなことにはならないのではないかと。

市や民間団体が企画運営をしているとのことだったが、留萌市では難しいのではないかと。

町職員や指定管理者が施設管理を行っているようだが、舞台技術は専門性が高くハードルが高い。

以上のことを考えると東神楽の「はなのわ」に近いように感じるが、使う目的と中身によって変わると思われる。

座長

「はなのわ」もプロが音響機材を持ち込むようである。そうなると、搬出入が課題になるが、基本的にはプロに任せの方が良いと考える。その前提でホールの階数も考えることになる。

固定席であれ可動席であれ、音響の部分は設計段階からしっかりと考慮する必要があると感じる。

また、運用主体をどのようにするかも重要であると感じる。稼働率の高い他自治体のように、せっかく造るのであれば、イベントの誘致や施設の活性化を考える必要がある。そうなると駐車場が少ないように感じるが、そのような連携も考えながら基本計画で記載できれば良い。

委員

前回、委員から文化センターの利用が少ないとのご発言があったが、その意図について教えていただきたい。

委員

主な利用は合宿も含めた吹奏楽の利用、中高生の定期演奏会、映画会、そして最も多いのが幼稚園のお遊戯会で使用されている。15、6年前から指定管理を続けているが、段々と利用が減っており、コロナ禍を経てさらに利用が落ち込んだ。有名人を呼んで公演を開いたこともあったが、200～300人ほどしか入らない。

また、費用も考えるとそれほど大物は呼べない。事例にあったように指定管理者等が主体となってイベントを誘致する方向とするのであればよいが、そうでなければ利用は増えづらい。学生と幼稚園は無料であり、無料での利用が主である。

委員

ホールの稼働日数と利用団体種別について情報提供を行っていただきたい。

個人的に調べたところ、10月のホールの稼働率は100%である。内訳は学生・市民利用が主であり、このような留萌市の特徴を生かした使い方とされるべきであると考えている。指定管理者から稼働率と利用団体種別についての資料を提示していただきたい。

事務局

すでにホールの使用実態は資料を公表しているが、使われ方の詳細を知りたいということか。

委員

過去の資料では、楽屋の稼働率が0%であったが、おそらく有料利用のみと思われる。市民が実際に使っている状況を皆さんに提示したいと考えており、1か月の稼働日数と利用者を出していただきたい。

委員

資料提供は可能。

座長

カウントの仕方の違いである。有料利用回数と無料利用回数で異なる。新施設で収益を上げることを目的とするのであれば有料利用のみが対象になるが、他事例にあったように市民利用を無料とし、使ってもらう施設にすることもできる。委員会のメンバーでも意見が一致しないところではあると思うが、検討会議ではそのような意見があったとして両論併記で提出し、市に委ねたいと考える。

個人的には、有料利用のみでもなく、また無料利用のみで稼働率が高い施設でもなく、両方のバランスの良い施設が良いと考える。いずれにしても軸をそろえた方がよいと考えており、そのための資料提供をお願いする。

委員

防災という観点であれば可動席が良いと思う。

可動席のホールでは揺れることからコンサート時には跳ねることを禁止にしており、コンサートを断るということもあった。実際、跳ねても大丈夫か。

ドーコン

正確なところはメーカーに問い合わせた方が良いが、跳ねない方が良い。跳ねても問題ないグレードの椅子にすることは可能だが、メンテナンス等も必要であり、また、跳ねて壊れてしまうとメンテナンス費用がかかる。跳ねない使い方が基本になる。

委員

逆に跳ねるような利用は少ないのでは。

委員

実際に近隣で公演した歌手に留萌で行わないのかを聞いたことがあるが、可動席のホールではできないということであった。

副座長

可動席であると年に1度メンテナンスが必要であるとのことだが、費用や必要回数についてはどうか。可動席であればメンテナンスが必要だが、固定席は掃除だけで済むなどランニングコストに関する知識として知っておきたい。

ドーコン

整備金額まではわからないがメンテナンスは必要である。

座長

ランニングコストは固定席の方が安いということか。

ドーコン

そうである。

副座長

新施設には、大ホール、小ホールと多目的ホールの3つのホールがある。そのうち、多目的ホールは避難用のホールで、大ホールも可動席にして平土間の避難用のホールにすると、避難用のホールが2つになる。果たしてそこまで必要であるのか。ホールを3つ持っている意味をしっかりと考える必要がある。多目的ホールは平土間であり、平土間形式のホールが3つ必要なのか、それとも大ホールは固定席にするのか。固定と平土間の複合のホールが大ホールとも考えることはできるのではないか。

座長

避難人数等についても検討したが、災害対応については想定が及ばないこともある。避難場所はあるにこしたことはないが、伊端委員の発言にもあったが、あまり災害にとらわれるのも良くないということであれば、ホールは固定でも良いかもしれない。
次に庁内の検討体制について説明をお願いします。

事務局

参考資料「新交流複合施設整備の検討体制（庁内）」の説明を行った。

座長

当初の予定では、議会および庁内検討会議の検討結果が報告されるとのことだったが、検討状況はいかがか。

事務局

現在のところ事務局の精査が進んでおらず、報告できる段階となっていない。

座長

当会議においても内容を検討していきたいと考えているので早期に情報提供をお願いします。

委員の中から残り2回しかないとの話であったが、あくまで最初に作ったロードマップである。

今回は議会および庁舎機能、次々回は議論が煮詰まっていない内容、市議会等から情報発信があった内容、最後にそれらをふまえた議論を行うイメージである。（検討会議は）あと3回ほどでまとめに向かっていきたいと考える。年内に終わるイメージである。

事務局

残りの回数は2回ということではなく、議論の状況に応じたい。

委員

市民公募委員は代理出席ができないのでオンライン参加はできないか。

事務局

可能である。

委員

当初は秋までに計画案を策定し、パブリックコメントを行って来年3月末に策定とのことだった。この計画はまちづくりに連動する大きな計画である。会議の意見はあくまで案として、大まかにまとめる形でよいのではないか。

事務局

当初のロードマップにこだわる形では進めず、決して3月までに策定するというわけでない。

座長

できれば年内にはまとめたい。

最後に委員から意見が寄せられているので説明をお願いする。

委員

ゾーニングとホールに関して議論すべき内容についての意見を書かせていただいた。基本構想や資料に掲載されているキーワードについて深掘した内容である。

ホール機能については可動席にするとメンテナンス費用がかかる、固定席にすると汎用性が落ちるなど、メリットデメリットを表に整理して提示する必要があると感じる。また、避難についてもより議論を詰める必要がある。

論点を事務局と座長、部会を含めてしっかりと設定し、議論を進めていきたいと考える。

議場および庁舎については、基本的には議会側や庁内検討会議で主体的に進め、結果の報告について議論する程度でないかと考えている。

事務局

次回、第6回の検討会議を10月28日（火）15時から市役所3階会議室にて開催。専門部会を10月16日（木）15時から市役所2階会議室にて開催する。

座長

以上で会議を終了とする。